

「未来の被災地」。最近頭から離れない言葉です。それは南海トラフ地震の被害を受ける可能性が高い首都圏や太平洋側の沿岸部全てです。大地震が起きたら、津波が来たら、どのように避難し当面の危機を回避するか。避難所でのように暮らすのか。復旧・復興の地域づくりをどのように進めるか。心災にどのように対処するか。

三十、三十一日にNPO法人JKSK(女子教育奨励会)では「第七回車座交流会」を仙台で開催いたします。東日本大震災から四年目の春を迎え、これまでの三年間、

## 東北復興日記



NPO法人JKSK  
理事  
大和田順子さん

91

# 学んで備える 未来の震災

岩手、宮城、福島で復興

の地域づくりにまい進さ

れてきた皆さんに学び、

未来の震災に備えること

もに、東北の美しい未来

づくりをさらに加速させる

ための手法や具体策を

議論します。

初日は仙台市内の津波

被災地域を訪問し、南蒲

生地区の女性たちとの交

流、蒲生干潟の生態系回

復状況の視察を行いま

す。晩は松島の宿でこれ

までの三年間の

取り組み・直面

する課題・今後

の展望について

各地からの報告

を。二日目は東

松島市内の沿岸

部で農業・地域

の再生に取り組

む「よつばファ

ーム」、海苔の

加工・直売所「のり工房

矢本」等を訪問。午後

に仙台に戻り、防災ワー

クショップ体験と車座ワ

ークショップが夕方まで行

われます。

宮城からは共催者の仙

台市、せんだい男女共同

参画財団の関係者や「東

北の美しい未来創造塾」

の受講生、写真、東松島

の方々。福島からいわ

きでオーガニックコット

ン栽培や事業化に取り組

んでいる「いわきおてん

とSUN」のメンバ

ー、南相馬からコミュニ

ティーの再生や被災地ガ

イドツアーを行っている方々が。岩手発『東北食べる通信』の編集長や生産者、その他石巻、大崎、そして首都圏などから参集します。

復興を推進してきた東北と首都圏の女性や若者が集い、これからの持続可能な地域づくりについてビジョンと具体的なプロセスを語り合います。二日だけのご参加も可能です。問い合わせはJKSKまで。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

